

# 第6次高畠町総合計画

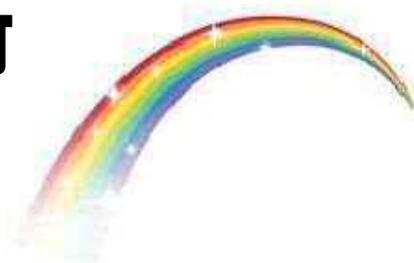
2019-2028

笑顔があふれ、温かいつながりが  
実感できるまちをめざして

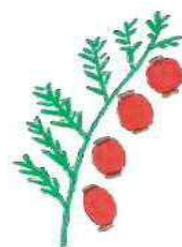
指標の達成状況及び  
施策評価  
(令和元年度)

あふれる うふふ ∞  
ゆきかう またね ∞

高 畠 町



— 目 次 —



1.将来像と基本目標の体系図について……………1

2.基本計画における関連指標について……………2

3.評価区分について……………2

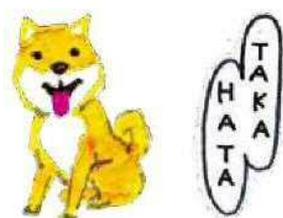
4.指標の達成状況

    (1)個別指標の進捗状況……………3

    (2)「めざす町の姿」ごとの進捗状況……………4

    (3)「まちづくりの基本目標」ごとの進捗状況……………5

5.今後の取り組みについて……………9



# 1. 将来像と基本目標の体系図について

令和元年度を初年度とする第6次高島町総合計画(令和元年度～10年度)において、みんなでめざす町の将来像を「ゆきかう「またね∞」あふれる「うふふ∞」」と表現しました。

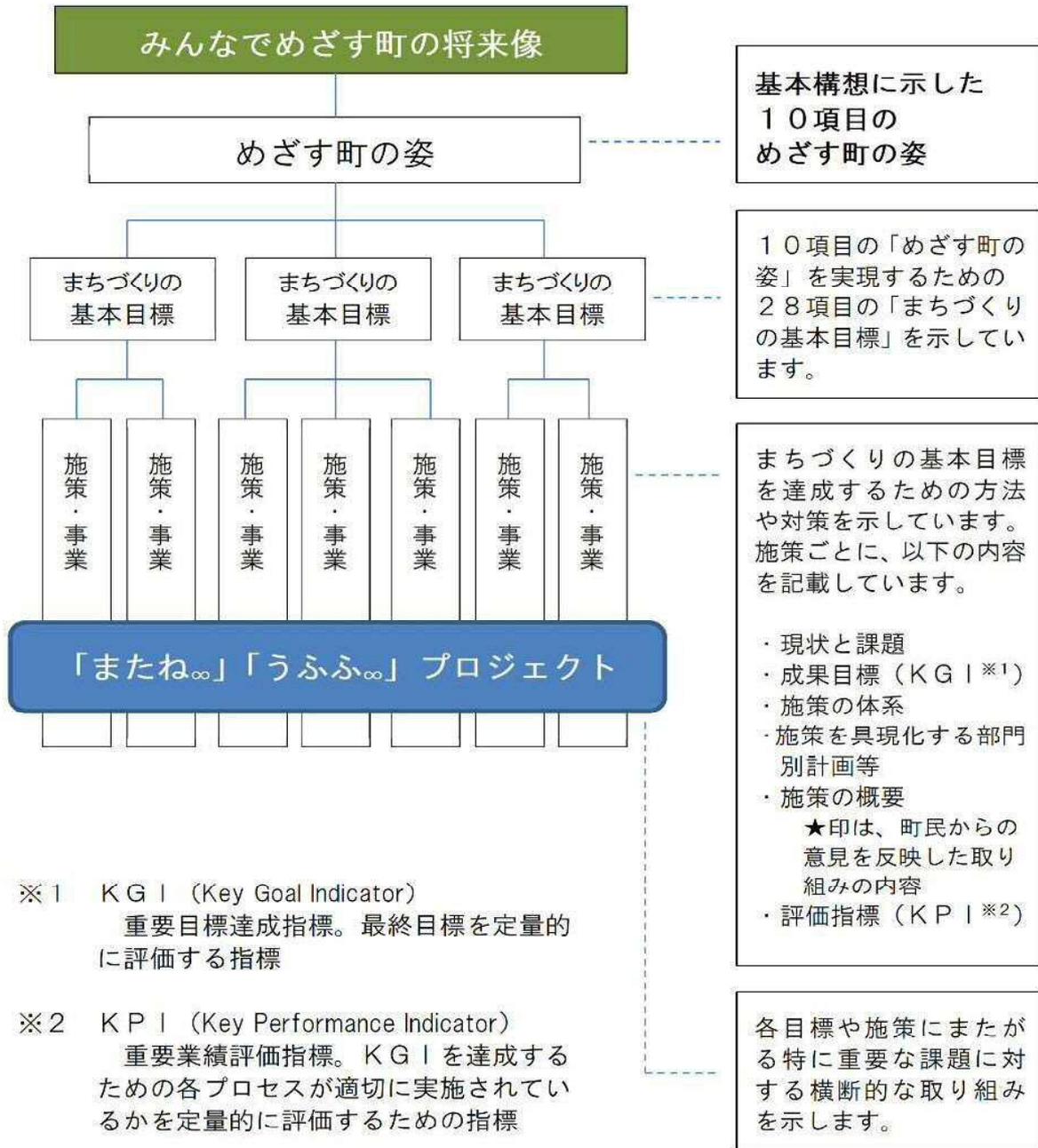
高島町の未来において一人ひとりが『しあわせ』になることを実現するため、ライフステージごとに10項目の「めざす町の姿」を設定し、28項目の基本目標を掲げています。

将来像	共通視点	ライフステージ	めざす町の姿	まちづくりの基本目標		
ゆきかう「またね∞」あふれる「うふふ∞」	楽しむ(うふふ) × つながる(またね) × 未来へつなぐ(∞無限大)	高島町で暮らす人の「しあわせ」のために	「生まれてくる」ひとのために	高島町で子どもを産み育てたい人が増えている	新しい家庭を築き、家族を増やすことを応援する 安心して子どもを産める環境やサポート体制を整える	
			「育つ」ひとのために	みんなが楽しみながら子どもを大切に育てている	子どもが健康にすくすく育つ環境を整える 子育ての負担を軽減する環境やリービースを増やす 課題を抱える子を育てる親が安心できる環境を整える	
			「学ぶ」ひとのために	学びの場が充実して、魅力ある“高島人”が育っている	子どもたちの中にある力を伸ばす教育を行う 学ぶ気持ちを大切に、地域の教育力をアップさせる 「ちがひ」を認めることができる人を増やす	
			「働く」ひとのために	技の継承と新たな取り組みで、産業に活力が生まれている	若者があこがれる「かつこいい」産業を増やす 資源や人のつながりで、地域産業を盛りあげる	
				夢や希望が実現しライフスタイルに合った働き方ができている	一人ひとりの生活にあった多様な働き方の選択肢を増やす 新しいビジネスを創出しやすい環境を整える	
			「暮らす」ひとのために	安心して生活できる環境があり、心豊かに暮らしている	自然とともに、心豊かな暮らしを楽しむ人を増やす 安心して快適に生活できる環境を整える みんなで地域に気を配り「もしも」の時に助け合えるしゅきを広げる	
				一人ひとりが健やかで、ゆるやかに支え合っている	生涯にわたって健康で活動的に生活できる人を増やす 地域の中でゆるやかに支え合うしゅきを広げる	
			「年を重ねた」ひとのために	年を重ねても誰もが自分らしくいきいきと暮らしている	生きがいをもち人生を楽しんでいる人を増やす 住み慣れた地域で、安心して暮し続けられる環境を整える	
			「次世代の」ひとのために	みんなで未来に向けたまちづくりを進めている	地域の自然や生態系を守る活動を広げる	
					持続可能な環境づくりに取り組む人を増やす	
					歴史、文化遺産を守り活用し、伝承する人を増やす	
					夢や志を持ち活躍する若者を増やす 協働でまちづくりを進めるための環境を整える	
			高島町とつながる人に	「町外に暮らす」ひとのために	高島町の魅力が伝わり、訪れる人、戻る人、移り住む人が増えている	町内外に町の魅力を効果的に発信する
						高島町ならではの発想による観光を生み出し、訪れる人を増やす
		交流力を高め、高島町を応援する人や地域を増やす				
		移住・定住しやすい環境を整え、戻ってくる人、移り住む人を増やす				

## 2. 基本計画における関連指標について

28項目のまちづくりの基本目標を定め、それぞれに成果目標を設定しています。そして、目標達成のため施策を設定し、一つひとつに具体的な数値等で示した115の関連指標を設定しています。

指標は、前期計画の最終年度である令和5年度の目標値に対し、達成状況を毎年確認し、公表することとしており、今回は計画の初年度となる令和元年度の達成状況等について分析・評価したものです。



## 3. 評価区分について

5年後の目標値への達成状況に応じて、「◎」「○」「△」「×」の4段階・記号を用いて評価します。

評価基準は次のとおりです。(評価年度に評価指標の調査がない場合は、直近の年度の評価を準用します。

初年度について評価実績がない場合は、△(現状値と同等で評価)で評価します。)

◎⇒5年後の目標値に達成
○⇒現状値から改善 ・積み上げの数値目標の指標においては、順調に数値を伸ばしている場合 ・単年度ごとの数値をもって比較する指標においては、現状値より実績がある場合
△⇒現状値と同等 ・現状値から数値が伸びず、現状値と同等であった場合 ・年度中に評価指標を測るための調査がない場合
×⇒現状値より後退 ・様々活動や取組を行っても現状値より後退した場合

#### 4. 指標の達成状況

##### (1) 個別指標の進捗状況

まちづくりの基本目標ごと合計115の評価指標を設定し評価を実施しました。

No.	めざす町の姿	まちづくりの基本目標	指標数
1	高畠町で子どもを産み育てたい人が増えている	①新しい家庭を築き、家族を増やすことを応援する	3
		②安心して子どもを産める環境やサポート体制を整える	4
2	みんなが楽しみながら子どもを大切に育てている	③子どもが健康にすくすく育つ環境を整える	5
		④子育ての負担を軽減する環境やサービスを増やす	6
		⑤課題を抱える子を育てる親が安心できる環境を整える	2
3	学びの場が充実して、魅力ある“高畠人”が育っている	⑥子どもたちの中にある力を伸ばす教育を行う	5
		⑦学ぶ気持ちを大切に、地域の教育力をアップさせる	5
		⑧「ちがいを認めることができる人」を増やす	2
4	技の継承と新たな取り組みで、産業に活力が生まれている	⑨若者があこがれる「カッコいい」産業を増やす	5
		⑩資源や人のつながりで、地域産業を盛りあげる	6
5	夢や希望が実現しライフスタイルに合った働き方ができている	⑪一人ひとりの生活に合った多様な働き方の選択肢を増やす	3
		⑫新しいビジネスを創出しやすい環境を整える	2
6	安心して生活できる環境があり、心豊かに暮らしている	⑬自然とともに、心豊かな暮らしを楽しむ人を増やす	2
		⑭安心して快適に生活できる環境を整える	8
		⑮みんなが地域に気を配り「もしも」の時に助け合えるしくみを広げる	6
7	一人ひとりが健やかで、ゆるやかに支え合っている	⑯生涯にわたって健康で活動的に生活できる人を増やす	6
		⑰地域の中でゆるやかに支え合うしくみを広げる	3
8	年を重ねても誰もが自分らしくいきいきと暮らしている	⑱生きがいを持ち人生を楽しんでいる人を増やす	2
		⑲住み慣れた地域で、安心して暮らし続けられる環境を整える	7
9	みんなが未来に向けたまちづくりをすすめている	⑳地域の自然や生態系を守る活動を広げる	5
		㉑持続可能な環境づくりに取り組む人を増やす	4
		㉒歴史、文化遺産を守り活用し、伝承する人を増やす	2
		㉓夢や志を持ち活躍する若者を増やす	4
10	高畠町の魅力が伝わり、訪れる人、戻る人、移り住む人が増えている	㉔協働でまちづくりを進めるための環境を整える	3
		㉕町内外に町の魅力を効果的に発信する	2
		㉖高畠町ならではの発想による観光を生み出し、訪れる人を増やす	5
		㉗交流力を高め、高畠町を応援する人や地域を増やす	5
		㉘移住・定住しやすい環境を整え、戻ってくる人、移り住む人を増やす	3

【図1】全体的な(各指標の)達成状況の割合



◎:5年後の目標値に達成・・・31.3%  
 ○:現状値から改善・・・・・・・35.7%  
 △:現状値と同等・・・・・・・13.9%  
 ×:現状値より後退・・・・・・・19.1%

「◎:5年後(10年後)の目標値に達成」した指標は、36指標で全体の31.3%、「○:現状値から改善」した指標は41指標で全体の35.7%となりました。

「△:現状値と同等」は16指標で全体の13.9%、「×:現状値より後退」は22指標で全体の19.1%となっており、現状値から改善となった以上の指標が全体の67.0%を占めており、前進がみられる結果となりました。次年度以降も引き続き目標達成に向け担当部署を中心として取り組んでまいります。

(2)「めざす町の姿」ごとの進捗状況

No.	めざす町の姿	指標合計	○以上	△以下	◎	○	△	×
1	高島町で子どもを産み育てたい人が増えている	7	85.7%	14.3%	1	5	0	1
2	みんなが楽しみながら子どもを大切に育てている	13	69.2%	30.8%	5	4	3	1
3	学びの場が充実して、魅力ある”高島人”が育っている	12	83.3%	16.7%	8	2	1	1
4	技の継承と新たな取り組みで、産業に活力が生まれている	11	54.5%	45.5%	1	5	3	2
5	夢や希望が実現しライフスタイルに合った働き方ができている	5	20.0%	80.0%	0	1	0	4
6	安心して生活できる環境があり、心豊かに暮らしている	16	75.0%	25.0%	3	9	2	2
7	一人ひとりが健やかで、ゆるやかに支え合っている	9	77.8%	22.2%	1	6	0	2
8	年を重ねても誰もが自分らしくいきいきと暮らしている	9	55.6%	44.4%	4	1	3	1
9	みんなで未来に向けたまちづくりをすすめている	18	72.2%	27.8%	9	4	1	4
10	高島町の魅力が伝わり、訪れる人、戻る人、移り住む人が増えている	15	53.3%	46.7%	4	4	3	4
合 計		115	67.0%	33.0%	36	41	16	22

評価の「○以上」と「△以下」で見ると、ライフステージ「生まれてくる」・「育つ」・「学ぶ」人(No.1～3)のためのいわゆる子育て等施策に関して高水準を示しています。

「働く」ひと(No.4～5)のための指標は、特にNo.5の目標の評価が低水準となっています。

「暮らす」ひと(No.6～7)のための指標は○の評価が多く、前進している結果がみられます。

「年を重ねた」・「次世代の」ひと(No.8～9)のための指標は○以上の評価が多いものの、△や×の評価も他の目標と比べて多い傾向にあり、今後の更なる取り組みの推進が求められます。

「町外に暮らす」ひとのための指標は△以下の評価が若干多い評価となりました。

### (3)「まちづくりの基本目標」ごとの進捗状況

まちづくりの基本目標	指標 合計	◎	○	△	×
①新しい家庭を築き、家族を増やすことを応援する	3	0	3	0	0
②安心して子どもを産める環境やサポート体制を整える	4	1	2	0	1
③子どもが健康にすくすく育つ環境を整える	5	3	1	0	1
④子育ての負担を軽減する環境やサービスを増やす	6	0	3	3	0
⑤課題を抱える子を育てる親が安心できる環境を整える	2	2	0	0	0
⑥子どもたちの中にある力を伸ばす教育を行う	5	4	0	1	0
⑦学ぶ気持ちを大切に、地域の教育力をアップさせる	5	3	1	0	1
⑧「ちがいがい」を認めることができる人を増やす	2	1	1	0	0
⑨若者があこがれる「カッコいい」産業を増やす	5	1	1	2	1
⑩資源や人のつながりで、地域産業をもりあげる	6	0	4	1	1
⑪一人ひとりの生活に合った多様な働き方の選択肢を増やす	3	0	1	0	2
⑫新しいビジネスを創出しやすい環境を整える	2	0	0	0	2
⑬自然とともに、心豊かな暮らしを楽しむ人を増やす	2	1	0	1	0
⑭安心して快適に生活できる環境を整える	8	1	6	1	0
⑮みんなで地域に気を配り「もしも」の時に助け合えるしくみを広げる	6	1	3	0	2
⑯生涯にわたって健康で活動的に生活できる人を増やす	6	1	3	0	2
⑰地域の中でゆるやかに支え合うしくみを広げる	3	0	3	0	0
⑱生きがいを持ち人生を楽しんでいる人を増やす	2	1	0	1	0
⑲住み慣れた地域で、安心して暮らし続けられる環境を整える	7	3	1	2	1
⑳地域の自然や生態系を守る活動を広げる	5	4	0	0	1
㉑持続可能な環境づくりに取り組む人を増やす	4	1	2	0	1
㉒歴史、文化遺産を守り活用し、伝承する人を増やす	2	1	0	1	0
㉓夢や志を持ち活躍する若者を増やす	4	1	1	0	2
㉔協働でまちづくりを進めるための環境を整える	3	2	1	0	0
㉕町内外に町の魅力を効果的に発信する	2	0	1	1	0
㉖高畠町ならではの発想による観光を生み出し、訪れる人を増やす	5	1	1	0	3
㉗交流力を高め、高畠町を応援する人や地域を増やす	5	3	0	1	1
㉘移住・定住しやすい環境を整え、戻ってくる人、移り住む人を増やす	3	0	2	1	0
合 計	115	36	41	16	22

1)高畠町で子どもを産み育てたい人が増えている	
①新しい家庭を築き、家族を増やすことを応援する	「赤ちゃん先生ふれあい体験授業」を高畠高校の協力を得て実施。新たに町内小中学校で行っていく。「高畠町結婚推進支援事業」ではイベントを5回開催したが参加者はほぼ現状値と同等であった。所管を企画財政課から生活環境課へ移管し引き続き事業を推進していく。
②安心して子どもを産める環境やサポート体制を整える	「新生児・産婦訪問」では目標値に達成する結果となったが、「ゆったりと子どもと過ごせる時間がある」とする母親の割合が現状値よりも下がっており、母親への支援を強化していく。
2)みんなが楽しみながら子どもを大切に育てている	
③子どもが健康にすくすく育つ環境を整える	「子育てボランティア登録数」は学生が休みを利用し活動するなど登録が増えた。地元の方が活躍できる場として定着を図っていく。 「学びと交流の場」は、1か所増えて合計2か所となり、目標値に達成し、500人程の参加者があった。今後も児童が利用しやすい体制を整え実施していく。
④子育ての負担を軽減する環境やサービスを増やす	「ふぁみりー学級」は現状値から前進しているが父親に対する講座の開催を検討していく。 「資格取得等の支援による就労人数」は着実に増えているが、資格取得のためには資金準備や受験が必要なため、給付金事業の周知を図り受給者を増やすことで貧困の連鎖防止を図っていく。
⑤課題を抱える子を育てる親が安心できる環境を整える	「医療的ケア児に関する協議の場」については置賜3市5町で連絡会の開催、町内で支援会議を関係部署で開催。今後は関係機関も交えた協議の場の開催を検討する。 「育児講座」をもつくる内の支援センター事業として開催。今後も交流の場を増やしていく。
3)学びの場が充実して、魅力ある“高畠人”が育っている	
⑥子どもたちの中にある力を伸ばす教育を行う	「子どもベンチャーマインド育成事業」、「町教育支援委員会」の開催、「ボランティア活動実践校」の割合などいずれも県平均を上回っている。今後も各事業において更に推進していく。
⑦学ぶ気持ちを大切に、地域の教育力をアップさせる	「図書館の利用者数」については目標値を大きく上回る結果となった。 「出前講座・町民講座」利用者数が現状値より下がった。出前講座は申し込み講座に偏りがあるためメニュー数の精査・ニーズ調査を行い、内容を検討する。町民講座は新たなメニューと講師確保を行うとともに、学校でも活用できるよう授業向けメニューを検討する。
⑧「ちがいを認めることができる人」を増やす	「人権教室」を各小中学校において実施した。 民生委員・児童委員、教育相談員等支援者の資質向上のため研修会を実施した。今後も機会を維持していく。
4)技の継承と新たな取り組みで、産業に活力が生まれている	
⑨若者があこがれる「カッコいい」産業を増やす	「若者の就農者数」は、現状値から増加。「農業産出額」も現状値から増加している。 「製造品出荷額」は現状値から減少。生産量・作業効率を高めるための設備投資、機械導入などに対し設備投資等補助事業を継続し支援していく。
⑩資源や人のつながりで、地域産業を盛りあげる	「新事業活動推進サポート補助事業」は1事業実施。今後も地域資源を活用した商品開発の支援を行っていく。 「たかはたブランドの拡充」は、現状値から2商品増加となった。認証を受けるメリットを充実し、商品の拡充に取り組んでいく。

5)夢や希望が実現しライフスタイルに合った働き方ができている	
⑪一人ひとりの生活に合った多様な働き方の選択肢を増やす	「新規高等学校卒業求職者の県内への就職率」、「職業体験・企業説明会に参加した小中高校生の人数」いずれも現状値から減少となった。関係機関と連携し、町内企業を知ってもらう機会を作り、町内・県内就職者を増やしていく。
⑫新しいビジネスを創出しやすい環境を整える	「創業セミナー受講者数」・「町の支援により創業・起業した者(社)の数」いずれも現状値から減少となった。セミナー(商工会主催)の開催場所・募集人数を検討し事業を継続していく。
6)安心して生活できる環境があり、心豊かに暮らしている	
⑬自然とともに、心豊かな暮らしを楽しむ人を増やす	「自然体験教室・自然体験イベントなどの実施回数」は目標値を上回る結果となった。現状の取り組みを継続していく。
⑭安心して快適に生活できる環境を整える	ハード整備となる「橋梁の老朽化対策実施数」、「都市公園リニューアル事業実施数」、「歩道整備総延長」は現状値を上回る結果となった。「水道管路の耐震化率」は、布設替工事よりも新規布設工事が多く耐震化率の向上には至らなかった。令和2年度からは高島地区老朽管更新事業に取り組み現状値の改善を目指していく。「除排雪活動に継続して取り組む集落数」は現状値から前進しているものの、目標達成のため各自治会へ周知徹底する必要がある。
⑮みんなで地域に気を配り「もしも」の時に助け合えるしくみを広げる	「自主防災組織率」が現状値から前進している。今後も組織率を100%とするべく、出前講座等で助言を行う。 「消防団員数」は現状値から減少する結果となった。加入年齢人口の減少、就業形態多様化による入団可能者の減少が考えられる。消防団員の処遇・構成等を充実させ、かつ消防団の必要性と魅力を発信し入団促進を図る。
7)一人ひとりが健やかで、ゆるやかに支え合っている	
⑯生涯にわたって健康で活動的に生活できる人を増やす	「健康マイレージ事業」等により運動のきっかけづくりや継続のための講座及び禁煙支援講座を開催。現状値から概ね前進する結果となった。 「後期高齢者医療の訪問診療利用者延べ人数」は現状値から下がる結果となった。施設入所者が増え、在宅医療が減少した結果と考えられる。
⑰地域の中でゆるやかに支え合うしくみを広げる	「ボランティアセンター登録者数」は、1年で20人増加を達成した。引き続き事業を継続していく。 「集落座談会を開催した集落数」は現状値から前進したものの目標には届いていないため、各自治会へ周知徹底する必要がある。
8)年を重ねても誰もが自分らしくいきいきと暮らしている	
⑱生きがいを持ち人生を楽しんでいる人を増やす	「住民主体の介護予防の場」は目標値を上回る結果となった。引き続き未設置集落へアプローチしていく。「地域の茶の間開設数」は現状値と同等となった。屋代、亀岡地区の関係者等と設立に向け協議していく。
⑲住み慣れた地域で、安心して暮らし続けられる環境を整える	「集落のサロン数」、「認知症カフェの利用者数」等、目標値を上回る結果となった。引き続き事業を継続していく。「介護者研修会(交流会)参加者数」は、現状値を下回る結果となった。
9)みんなで未来に向けたまちづくりをすすめている	
⑳地域の自然や生態系を守る活動を広げる	「耕作放棄地面積」は、目標値を達成する結果となった。農地パトロールにより所有者に調査を行い、完全に管理放棄する前に自己保全する方向に促すことができている。 「有機・特別栽培水田面積」は、現状値から減少する結果となった。令和2年度に有機推進計画を策定し、令和3年度から有機農業を推進していく予定。

<p>②持続可能な環境づくりに取り組む人を増やす</p> <p>「公共施設の温室効果ガス排出量」は、目標値を上回る結果となった。公立高島病院の設備を省エネ設備に更新したことが削減につながった。効果を検証し、他施設にも取り組みを広げていく。 その他の指標についても前進がみられた。</p>
<p>②歴史、文化遺産を守り活用し、伝承する人を増やす</p> <p>「歴史文化学習会の開催数」は、目標値を上回る結果となった。引き続き文化施設、関係機関と協力し、事業を実施していく。 「文化遺産の活用事業数」は、現状値と同等となった。年末に計画していた事業が新型コロナウイルス感染症防止のため急遽中止した。コロナ時代に対応した実施可能な方法を模索している。</p>
<p>③夢や志を持ち活躍する若者を増やす</p> <p>「中高生や若者によるまちづくり企画の支援回数」は、目標値を達成した。シングルton派遣事業など長年継続している事業や各大学と連携し新たに行っている事業等があるが、引き続き事業を継続し、支援していく。 「若者の夢や志を支援するプロジェクト事業実施回数」は、4事業実施された。今後も事業内容に合わせ関係機関と連携した取り組みを行う。また、新たな事業提案に対し、各種補助制度の情報提供を行い支援していく。</p>
<p>④協働でまちづくりを進めるための環境を整える</p> <p>「財政力指数」は、基準財政収入額のうち、固定資産税、地方特例交付金が増加したことにより増となり目標値を上回る結果となった。 「派遣研修受講職員の延べ人数」は、目標値を上回る結果となった。</p>
<p>10)高島町の魅力が伝わり、訪れる人、戻る人、移り住む人が増えている</p>
<p>⑤町内外に町の魅力を効果的に発信する</p> <p>「ふるさと名物応援宣言による地域ブランド商品サービスの開発件数」は、地域活力創生プロデューサーと協議しながら進めてきたが商品開発及び宣言までに至らなかった。この取り組みがプロデューサー任期終了により中断となっているためどのような形で宣言を目指せるか検討していく。 「首都圏プロモーションの実施回数」は、現状値から前進した。今後は、新型コロナウイルス感染症の影響で首都圏でのプロモーション実施が当面不可能であることから、新たな戦略を考えることが急務である。</p>
<p>⑥高島町ならではの発想による観光を生み出し、訪れる人を増やす</p> <p>「町公式ホームページ観光サイト閲覧数」は、目標値を上回る結果となった。ホームページリニューアルも重なり、閲覧数は伸びているが情報更新がイベント告知以外なかったため、今後は高島町のPRの場として使用し、随時新規情報を更新していく。 「町内宿泊者数」、「外国人宿泊者数」は、現状値を下回る結果となった。観光客数の減少や大雨等の災害、新型コロナウイルス感染症の影響を大きく受ける結果となった。観光資源の発掘、磨き上げを行い、高島ならではの新たな観光プログラムづくり、通過型が主流となっている外国人向けに魅力ある滞在型メニューづくりに取り組んでいく。</p>
<p>⑦交流力を高め、高島町を応援する人や地域を増やす</p> <p>「県外の企業・自治体・大学等と協働で3年間以上継続して行っている事業の数」は、目標値を上回る結果となったが今後は、新型コロナウイルス感染症の影響により、実施可能な開催方法の検討が必要となる。 「ふるさと納税の申込延べ人数」は、現状値を下回る結果となった。寄付件数の減少率に比べて寄付金額の減少率は低かった。今後は企画財政課から商工観光課に移管し、更なる商品数の拡大、PRを図り目標値の達成に向け事業を継続していく。</p>
<p>⑧移住・定住しやすい環境を整え、戻ってくる人、移り住む人を増やす</p> <p>「空き家バンクの成約数」は、現状値を上回り前進した。空き家バンク活用による移住希望者が多いが、登録物件が不足していることが課題となっている。</p>

## 5. 今後の取り組みについて

第6次高畠町総合計画初年度となる、令和元年度の進捗状況としては、概ね順調に進んでいる結果となりました。しかし、現状値から後退している項目もあり、関係各課において事業等の結果が前進していくよう取り組んでいかなければなりません。また、新型コロナウイルス感染症の影響を大きく受ける事業については、新しい取り組みを模索する必要があります。

2年目は計画の本格始動となるため、特に重要な課題に対する取り組みを「「またね∞」「うふふ∞」プロジェクト」として位置づけ、関係課で横断的なプロジェクトチームを構成して取り組みを進めます。

また、その他の重要課題についても、めざす将来像の実現に向け、各課において施策を着実に進めていきます。

No.	めざす町の姿	基本目標	施策	評価指標 (KPI)	目標値	現状値	R1末実績	進捗状況	担当課	指標の主な事業	実績値に対する現状分析、今後の取り組み方針など
1)-①-1	高島町で子どもを産み育てたい人が増えている	①新しい家庭を築き、家族を増やすことを応援する	家庭を築くことについて理解を深める機会をつくります	乳幼児とのふれあい体験の実施回数(年間)	3回	-	1回	○	健康長寿課	赤ちゃん先生ふれあい体験授業	高島高校の協力を得て実施。新たに町内小中学校での取り組みを行っていく
1)-①-2			出会いの場や交流できる機会を増やします	結婚推進関連事業への参加者数(年間)	200人	150人	151人	○	企画財政課	高島町結婚推進支援事業	イベント開催数:5回
1)-①-3			結婚する若者や子育て世帯の高島町での新生活を応援します	高島町若者定住促進事業による支援件数(累計)	120件	74件	10件	○	建設課	若者定住促進事業(助成金)	町外から転入した若者世帯定住実績が10件あり順調に推移している。今後も継続して実施する。
1)-②-1		②安心して子どもを産める環境やサポート体制を整える	子どもを産み育てたい人を応援します	子育て世代を受け入れできる地域の居場所の数	6か所	2か所	3か所	○	健康長寿課	一般介護予防事業	高島、二井宿、糠野目で受け入れ可。子育て世代への周知をしていく。
1)-②-1			子どもを産み育てたい人を応援します	妊娠中、仕事を続けることに対して職場から配慮をされたと思う就労妊婦の割合	95%	83.30%	90.30%	○	健康長寿課	産前産後サポート事業	母子健康手帳交付時などパンフレットの配布を継続。
1)-②-1			子どもを産み育てたい人を応援します	ゆったりとした気分で子どもと過ごせる時間がある母親の割合	90%	84.50%	71.20%	×	健康長寿課	乳幼児健診・健康相談、子育て相談会	子どもの年齢が上がると余裕がなくなる傾向にあるため、母親への支援を強化していく。
1)-②-2	妊娠から子育てまで、切れ目のない支援を行います		産後、退院してからの1か月程度、助産師や保健師等からの指導・ケアは十分に受け取ることができたと回答した者の割合	95%	90.40%	95.20%	◎	健康長寿課	新生児・産婦訪問	継続実施していく。	
2)-③-1	みんなが楽しみながら子どもを大切に育てている	③子どもが健康にすくすく育つ環境を整える	地域全体で子どもがのびのびと育つ環境をつくります	子育てボランティア登録数	20人	0人	6人	○	福祉こども課	屋内遊戯場「もっくる」内の業務の手伝い。子育て支援センター「みんなの広場」の講師等。	高校生や専門学生など夏休み等を利用して登録し、活動してくれた。みんなの広場では、こちらからの要請でお願いしているため、これからも広くボランティアを募り、地域の方が活躍できる場としても定着できるようにしていく。
2)-③-1			地域全体で子どもがのびのびと育つ環境をつくります	学びと交流の場の数	2か所	1か所	2か所	◎	福祉こども課	高島地区の居場所「のんびり」で週1回を周年実施。参加児童数421人。2か所目は、生涯学習館を会場に、11月24日より週1回実施。参加児童数47人。	コロナ感染防止対策により3月休止したが、年間の開催回数と参加児童数は前年比1.1倍であり、対象児童への支援策として定着してきている。また、増設により、交通手段のない児童が徒歩で参加できるようになっており、今後も児童が利用しやすい体制を視点を展開する。
2)-③-2			子どもの健康を守る取り組みを行います	3歳児でむし歯のない幼児の割合	80%	77.10%	82.70%	◎	健康長寿課	歯科健康相談・乳幼児健診	継続実施していく。
2)-③-2			子どもの健康を守る取り組みを行います	低出生体重児の割合	減少	11.20%	4.40%	◎	健康長寿課	ふあみりー学級	年次変化が大きい指標のため、引き続き妊婦への指導を徹底していく。
2)-③-3			子どもの発達過程や特性に応じた支援を行います	育てにくさを感じたときに対処できる親の割合	95%	89%	82.30%	×	健康長寿課	乳幼児健診・健康相談、子育て相談会	これまで同様、関係機関と連携しながら子育ての困り感を早めに把握し対応していく。
2)-④-1	みんなが楽しみながら子どもを大切に育てている	④子育ての負担を軽減する環境やサービスを増やす	ゆとりある子育てができるよう、仕事と子育ての両立を支援します	病児保育施設との連携強化数	3か所	2か所	2か所	△	福祉こども課	町外病児保育施設利用施設数	近隣自治体にある病児保育施設を利用する町内の子どもが一定程度いること、ニーズ調査で町内で利用したい人が一定程度いることから、先進事例の視察を行い、町内での設置・運営に向け検討を行う。

No.	めざす町の姿	基本目標	施策	評価指標 (KPI)	目標値	現状値	R1末実績	進捗状況	担当課	指標の主な事業	実績値に対する現状分析、今後の取り組み方針など
2)-④-1	みんなが楽しみながら子どもを大切に育てている	④子育ての負担を軽減する環境やサービスを増やす	ゆとりある子育てができるよう、仕事と子育ての両立を支援します	放課後児童クラブの定員数	372人	305人	337人	○	福祉こども課		糠野目地区の放課後児童クラブ「みんなのクラブ」を改築し、定員増を図った。今後は、利用者の推移を見極めながら他施設の受入れスペースの問題や老朽化に対する整備が必要となってくる。
2)-④-1			ゆとりある子育てができるよう、仕事と子育ての両立を支援します	3歳未満児の待機児童数	0人	0人	0人	△	福祉こども課		出生数が減少している中、3歳未満児の入所割合が年々高くなっている傾向がある。保護者のニーズに合わせて、希望どおり入所できるよう、入所時期についても十分配慮していく。
2)-④-1			ゆとりある子育てができるよう、仕事と子育ての両立を支援します	積極的に育児に参加している父親の割合	70%	56.50%	68.70%	○	健康長寿課	ふぁみりー学級	機会を捉え、父親に対する講座の開催を検討していく。
2)-④-2		子育て世代の経済的負担を軽減します	資格取得等の支援による就労人数(累計)	5人	1人	3人	○	福祉こども課	ひとり親家庭生活応援給付金の受給者	現受給者が、就職に至り、累計4人となるのが令和3年度の見込み。修業するには資金準備や受験が必要となることから、給付金事業の周知を早期から図り、受給者を増やすことで、貧困の連鎖防止を図っていく。	
2)-④-2		子育て世代の経済的負担を軽減します	子育てについて困る町のひとり親の割合	35.60%	45.60%		△	福祉こども課	高島町ひとり親家庭実態調査	令和2年度に第2回のひとり親家庭等実態調査を実施予定。	
2)-⑤-1		⑤課題を抱える子を育てる親が安心できる環境を整える	地域で安心して暮らせる保育・教育・医療体制を整えます	医療的ケア児に関する協議の場の設置	設置	-	設置	◎	福祉こども課	医療的なケアが必要な障がい児の地域生活を支援するための情報共有と連携体制の構築	置賜3市5町にて広域にて連絡会を開催。町においては、医療的ケア児を含め障がい児全体の支援会議を関係部署で開催。今後は、関係機関も交えた協議の場の開催を検討している。
2)-⑤-2	親同士が悩みを共有できる交流の場をつくります	交流の場の開催回数(累計)	5回	-	8回	◎	福祉こども課	育児講座	屋内遊戯場内の子育て支援センターの行事として開催。町内の方を優先に参加を募ったが、町外の方の申込も多く、町民優先のPRの仕方を工夫していく。働いている保護者のために、土曜日の開催や月1回の講座を考え、交流の場を増やしていく。		
3)-⑥-1	学びの場が充実して、魅力ある“高島人”が育っている	⑥子どもたちの中にある力を伸ばす教育を行う	人生を自ら切り開き豊かにする力を育みます	自ら課題を解決しようとする子どもの割合	69%	66.05%	72.30%	◎	教育総務課	子どもベンチャー・マインド育成事業 実施校1校	県平均70.4%を上回っている、今後も課題解決型の学習を多く取り入れていく。
3)-⑥-2	学びの場が充実して、魅力ある“高島人”が育っている	⑥子どもたちの中にある力を伸ばす教育を行う	他者を思いやる心を育てます	自己を肯定できる子どもの割合	82%	80.90%	84.10%	◎	教育総務課	町教育支援委員会 4回開催	県平均81.1%を上回っている、今後も道徳教育を推進していく。
3)-⑥-3			生まれ育った町を愛する心を育てます	地域や社会をよくしたいと考える子どもの割合	57%	52.85%	63.90%	◎	教育総務課	ボランティア活動実践校 7校	県平均61.5%を上回っている、今後も地域題材の教材化や地域行事への積極的な参加を促していく。
3)-⑥-4			安心して学べる教育環境を整えます	学校への地域人材の参加人数(年間)	増加	1,066人	2,131人	◎	社会教育課	地域学校協働本部事業(高島・二井宿・屋代・亀岡・和田・糠野目)	学校・家庭・地域が連携し、子どもたちの学習環境や見守り活動を継続していく。

No.	めざす町の姿	基本目標	施策	評価指標 (KPI)	目標値	現状値	R1末実績	進捗状況	担当課	指標の主な事業	実績値に対する現状分析、今後の取り組み方針など
3)-⑥-4	学びの場が充実して、魅力ある“高島人”が育っている	⑥子どもたちの中にある力を伸ばす教育を行う	安心して学べる教育環境を整えます	大規模改修対象校(4校)の改修進捗率	25%	-	-	△	教育総務課	小学校普通教室エアコン設置工事	令和4年度より大規模改修工事における設計業務を実施する予定となっているが、統廃合等も視野に入れ、再度検討する。
3)-⑦-1			誰もが学びたいくなる環境をつくります	生涯学習講座への参加人数(年間)	維持	14,000人	18,708人	◎	社会教育課	高島町町民憲章制定40周年記念講演会、自治公民館活動研究集会他	自主的、自発的な活動を促し、事業が継続できるよう支援をしていく必要がある。事業内容に合わせて関係機関と連携した取り組みを行う。
3)-⑦-1		誰もが学びたいくなる環境をつくります	図書館の利用者数(年間)	21,000人	16,100人	47,150人	◎	社会教育課	図書貸出、図書館事業	図書貸出の利用促進、学習・精読利用の推進及び充実した魅力のある自主事業の展開を図る。	
3)-⑦-1		⑦学ぶ気持ちを大切に、地域の教育力をアップさせる	誰もが学びたいくなる環境をつくります	出前講座・町民講座の利用者数(年間)	維持	2,500人	1,900人	×	社会教育課	まちづくり出前講座、たかはた町民講座	出前講座_申込講座に偏りがある。メニュー数の精査とニーズ調査などを行い内容を検討する。町民講座_登録講師の減少。新たなメニューと講師確保を行う。今後は学校で活用できるように授業向けメニューを検討する。
3)-⑦-2		地域のつながりによる学びの場を広げます	地域における学びの場の数	増加	127か所	128か所	◎	社会教育課	自治公民館99館、社会教育関係21館、他8施設	世代交流・学びの場・体験活動の拠点として「場づくり」の充実を展開していく。不変のテーマです。	
3)-⑦-3		学んだことを生かし、人を育てるしくみをつくります	地域の先生登録者数(地域人材バンク)	100人	-	13人	○	社会教育課	たかはた町民講座(登録講師)	(再掲)登録講師の減少。新たなメニューと講師確保を行う。今後は学校で活用できるように授業向けメニューを検討する。	
3)-⑧-1		⑧「ちがいを認めることができる人を増やす	一人ひとりを大切に、お互いを尊重する心を育てます	児童生徒に対する人権教育・福祉教育の実施回数(年間)	12回	7回	9回	○	生活環境課	各小・中学校において人権教室を実施	いじめ等の人権問題について考える機会を維持していく。
3)-⑧-2	⑧「ちがいを認めることができる人を増やす	相談者の心に寄り添った相談、支援を行います	支援者の資質向上のための研修実施回数(年間)(民生委員・児童委員・老人福祉相談員・人権擁護委員・教育相談員研修会数)	維持	12回	30回	◎	統合	宿泊研修、東置賜郡民生委員児童委員全員対象研修会、各支部月例会、人権啓発後援会の実施、教育相談員情報交換会12回	全体研修のほか、各支部ごと定期的に研修を行っていく。(民児委)資質向上のため研修会を年1回開催する。(人委)情報交換を毎月行い関わり方について研鑽している。(教育)	
4)-⑨-1	技の継承と新たな取り組みで、産業に活力が生まれている	⑨若者があこがれる「カッコいい」産業を増やす	「カッコいい」「もうかる」農業づくりを支援します	農業産出額	82億円	78.7億円	81.7	○	農林振興課		市町村別農業算出(推計) ※農林業センサスを基にした国による推計値
4)-⑨-1			「カッコいい」「もうかる」農業づくりを支援します	若者の就農者数(年間)	維持	5人	6人	◎	農林振興課	令和元年度中の青年等就業計画認定者数	農家子弟及び新規参入者が同数程度計画承認申請をおこなっている。
4)-⑨-1			「カッコいい」「もうかる」農業づくりを支援します	町公式YouTubeチャンネル農業番組制作本数(累計)	20本	1本	1本	△	農林振興課		
4)-⑨-2			商工業の維持・発展のための支援をします	製造品出荷額	7,044,349万円	5,789,941万円	5,769,362万円	×	商工観光課	・製造業設備投資等補助事業 ・新事業活動推進サポート補助事業	米中貿易摩擦の深刻化、EU諸国の輸出の下振れの影響などにより減少した。生産量、作業効率を高めるため施設整備、機械導入などに対し設備投資等補助事業を継続し支援していく。

No.	めざす町の姿	基本目標	施策	評価指標 (KPI)	目標値	現状値	R1末実績	進捗状況	担当課	指標の主な事業	実績値に対する現状分析、今後の取り組み方針など
4)-⑨-2	技の継承と新たな取り組みで、産業に活力が生まれている	⑨若者があこがれる「カッコいい」産業を増やす	商工業の維持・発展のための支援をします	商業年間商品販売額	2,869,855万円	2,731,634万円	2,731,634万円	△	商工観光課	・製造業設備投資等補助事業 ・新事業活動推進サポート補助事業	平成28年数値が最新のため、現状値と同じ数値になっている。生産量、作業効率を高めるため施設整備、機械導入などに対し設備投資等補助事業を継続していく。
4)-⑩-1		⑩資源や人のつながりで、地域産業をもうあげる	多様な連携による「もの・こと」づくりを推進します	製造業付加価値額	26,888百万円	22,100百万円	21,649百万円	×	商工観光課	・製造業設備投資等補助事業 ・新事業活動推進サポート補助事業	米中貿易摩擦の深刻化、EU諸国の輸出の下振れの影響などにより減少した。生産量、作業効率を高めるため施設整備、機械導入などに対し設備投資等補助事業を継続し支援していく。
4)-⑩-2			町内資源のフル活用による産業発展を支援します	農商工親連携事業の支援数	10事業	-	1事業	○	商工観光課	・新事業活動推進サポート補助事業	地域資源を活用した商品開発に向けて、新事業推進サポート事業を通して農商工親連携による商品開発など支援していく。
4)-⑩-2			町内資源のフル活用による産業発展を支援します	町外企業との連携事業数	7事業	2事業	3事業	○	商工観光課	・新事業活動推進サポート補助事業 ・地域企業団体交流事業	各種展示会で最新情報収集につとめ、連携事業を増やして行く。
4)-⑩-2			町内資源のフル活用による産業発展を支援します	町内農畜産物の新規需要取引数	5	-	1	○	農林振興課	たかはたファームのミニジャム事例	
4)-⑩-2			町内資源のフル活用による産業発展を支援します	地産地消取り組み事業数	33事業	28事業	28事業	△	農林振興課	関係機関における取組事業数 28事業	関係機関と連携し、取組の継続をすすめる。
4)-⑩-2			町内資源のフル活用による産業発展を支援します	たかはたブランドの拡充	40商品	30商品	32商品	○	商工観光課	「広報たかはた」にてブランド認証商品を募集	令和元年度に作成した「たかはたブランドカード」を活用し、大型国際展示会をはじめ、たかはたフェア等の催事で広くPR活動を行い、知名度向上を図ることができたものの、たかはたブランド商品の拡充には至っていない状況である。認証を受けることのメリットを更に充実させ、商品の拡充に取り組んでいきたい。
5)-⑪-1	夢や希望が実現しライフスタイルに合った働き方ができている	⑪一人ひとりの生活に合った多様な働き方の選択肢を増やす	多様な働き方ができるよう支援を行います	情報提供手段の増加	4ツール	1ツール	2ツール	○	商工観光課		現在、書面、ホームページ等での情報提供を行っているが、フェイスブック、メールマガジンなど情報提供手段を増やしていく。
5)-⑪-2			やりがいのある仕事と出会う機会を作ります	新規高等学校卒業求職者の県内への就職率	80.20%	74.60%	71.40%	×	商工観光課	町内企業説明会	ここ数年県内就職者は約7割で推移している。高島町雇用対策協議会、高島町経営者協会と連携を図り、町内企業説明会、職業体験を通して町内企業を知ってもらう機会をつくり、町内、県内就職者を増やして行く。
5)-⑪-2		⑪一人ひとりの生活に合った多様な働き方の選択肢を増やす	やりがいのある仕事と出会う機会を作ります	職業体験・企業説明会に参加した小中高校生の人数(年間)	280名	200名	158名	×	商工観光課	職業体験、町内企業説明会	高島町雇用対策協議会、高島町経営者協会と連携を図り、町内企業説明会、職業体験を通して町内企業を知ってもらう機会をつくり、町内、県内就職者を増やして行く。

No.	めざす町の姿	基本目標	施策	評価指標 (KPI)	目標値	現状値	R1末実績	進捗状況	担当課	指標の主な事業	実績値に対する現状分析、今後の取り組み方針など
5)-⑫-1	夢や希望が実現しライフスタイルに合った働き方ができている	⑫新しいビジネスを創出しやすい環境を整える	創業・起業に役立つ情報を提供します	創業セミナーの受講者数(年間)	15人	15人	9人	×	商工観光課	創業支援補助事業	毎年、商工会主催の創業セミナーの受講者は先着順で10人としている。募集期間内に先着10人で定員達している状況なので、開催場所を含め募集人数を検討し事業継続していく。
5)-⑫-2			総業・起業を支援します	町の支援により創業・起業した者(社)の数	18件	8件	2件	×	商工観光課	創業支援補助事業	毎年、商工会主催の創業セミナーの受講者は先着順で10人としている。募集期間内に先着10人で定員達している状況なので、開催場所を含め募集人数を検討し事業継続していく。
6)-⑬-1	安心して生活できる環境があり、心豊かに暮らしている	⑬自然とともに、心豊かな暮らしを楽しむ人を増やす	自然の恵みを生かしたくらしを広げます	自然体験教室・自然体験イベントなどの実施回数(年間)	維持	31回	72回	◎	統合	<ul style="list-style-type: none"> <li>・みどり環境交付金事業を活用した森林学習体験(高島小学校)10回 対象者:114人(4年生:60人、5年生:54人)</li> <li>・多面的支払交付金制度による生き物調査 5回 対象者:6人</li> <li>・県、ステーションサンプルと町の協定に基づく絆の森事業 2回 対象者:25名</li> <li>・ゆききの里さんさんを利用した農業体験数 12回</li> <li>・河川の水質調査</li> <li>・地区づくり計画、教育キャンプ、放課後子ども教室</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・交付金事業を活用することで、多くの方を対象に森林学習体験など事業を実施できた。また、民間事業者が主体となった森林環境整備を実施できた。今後も交付金を活用し、幅広く木育の推進を図る。</li> <li>・環境学習の軸を地球温暖化対策とし実施していることから、現状維持の取り組みを続けていく。</li> <li>・第4期地区づくり計画を支援し、事業を継続していく。事業内容に合わせて関係機関と連携した取り組みを行う。</li> </ul>
6)-⑬-2			自然に親しみながら、のんびり、ゆったり暮らしたい人を応援します	田舎暮らし体験者数(累計)	10人	-	0人	△	企画財政課	主催した事業がなかった。	
6)-⑭-1		⑭安心して快適に生活できる環境を整える	安心な暮らしを支える公共インフラの整備をすすめます	橋梁の老朽化対策実施数(累計)	18橋	5橋	4橋	○	建設課	橋梁の長寿命化修繕事業(交付金)	15m未満の橋梁3橋と、15m以上の橋梁1橋の合計4橋の修繕を行った。今後についても計画的に橋梁の補修工事を実施していく。(R2については、4橋予定。)
6)-⑭-1			安心な暮らしを支える公共インフラの整備をすすめます	都市公園リニューアル事業(遊具施設)実施数(累計)	3公園	1公園	2公園	○	建設課	都市公園の長寿命化事業(交付金)	まほろばの緑道(高島・竹森広場)の遊具施設をリニューアルし、次年度には高島駅南と最上川河川敷糠野目緑道を計画しており、順次リニューアルを図る。
6)-⑭-1	安心な暮らしを支える公共インフラの整備をすすめます		歩道整備総延長	45.245km	44.245km	44.345km	○	建設課	新設歩道の設置工事(交付金)	町道本町泉岡線の歩道工事(L=100.0m)を行い、一部であるが供用を開始した。次年度は、当該路線のほか、高島小学校西線の供用開始も予定している。	

No.	めざす町の姿	基本目標	施策	評価指標 (KPI)	目標値	現状値	R1末実績	進捗状況	担当課	指標の主な事業	実績値に対する現状分析、今後の取り組み方針など		
6)-⑭-1	安心して生活できる環境があり、心豊かに暮らしている	⑭安心して快適に生活できる環境を整える	安心な暮らしを支える公共インフラの整備をすすめます	水道管路の耐震化率	23%	20%	20%	△	上下水道課	高島地区老朽管更新事業	令和元年度は布設替工事よりも新規布設工事が多かったため、耐震化率の向上には至らなかった。令和2年度から高島地区老朽管更新事業に取り組み現状値の改善を目指していく。なお、耐震化率を1%向上するには約2.2kmの更新が必要となる。		
6)-⑭-2			ずっと住み続けたいくなる住環境づくりを推進します	高島町住宅リフォーム支援事業による支援件数(年間)	50件	48件	65件	◎	建設課	住宅リフォーム工事による省エネ化、断熱化	広報活動により広く利用活用を促している。今後も継続して実施する。		
6)-⑭-2	安心して生活できる環境があり、心豊かに暮らしている	⑭安心して快適に生活できる環境を整える	ずっと住み続けたいくなる住環境づくりを推進します	空き家利活用件数(年間)	10件	-	1件	○	建設課	空家バンクにより空家の有効活用	物件登録が少ないので、空家所有者へのPRを続けていく		
6)-⑭-3			冬期間の安全な生活環境づくりを行います	道路除排雪担い手確保件数	5件	0件	3件	○	建設課	町道除排雪事業	オペレータが高齢化し、事業所間での移籍など、委託業者各社で、人材及び若手担い手の確保に苦慮している。		
6)-⑭-3			冬期間の安全な生活環境づくりを行います	除排雪活動に継続して取り組む集落数	29集落	14集落	16集落	○	福祉こども課	集落単位での除排雪のしくみづくり支援	目標に届いていないため、各自治会へ周知徹底する必要がある。		
6)-⑮-1			安心して生活できる環境があり、心豊かに暮らしている	⑮みんなで地域に気を配り「もしも」の時に助け合えるしくみを広げる	地域ぐるみで災害に対応できる力を高めます	福祉防災マップ作製集落数	54集落	39集落	40集落	○	福祉こども課	集落単位での地域支え合い(福祉防災)マップづくり支援	目標に届いていないため、各自治会へ周知徹底する必要がある。
6)-⑮-1					地域ぐるみで災害に対応できる力を高めます	自主防災組織率	100%	81.10%	91.90%	○	総務課		令和元年度中は1組織が新たに組織された。また、令和2年4月から組織する分が4組織ある。今後も、組織率を100%とするべく、出前講座等での助言を行う。また、令和2年度中に各地区で自主防災組織連絡協議会を立ち上げ、地域との連携を強化し、防災力の向上に取り組む。
6)-⑮-1	地域ぐるみで災害に対応できる力を高めます	消防団員数			785人	764人	747人	×	総務課		加入年齢人口の減少及び、就業形態による入団可能者の減少等が考えられる。消防団員の処遇・構成等をさらに充実させ、かつ消防団の必要性と魅力を発信し入団促進を図る。		
6)-⑮-2	地域での犯罪や事故を未然に防ぎます	運転免許証自主返納者数(年間)			80人	63人	79人	○	生活環境課	高齢者交通安全教室や各種会議の折にミニ指導を実施。	公共交通機関が乏しく高齢者移動手段が少ない為、他課と連携を図りながら返納を促す。		
6)-⑮-2	地域での犯罪や事故を未然に防ぎます	犯罪認知件数(年間)	45件	53件	65件	×	生活環境課	防犯協会各支部毎に青パト防犯広報や防犯啓発活動を実施。	侵入窃盗や自転車の盗難等が増加した。関係機関と連携を密にし、啓発活動の充実を図る。				
6)-⑮-2	地域での犯罪や事故を未然に防ぎます	交通事故(人身)の発生件数	85件	93件	62件	◎	生活環境課	関係機関・推進団体と連携を図り、交通安全県民運動を各季毎実施。	交通事故件数は減少傾向にあるが、高齢者が関わる事故の割合が高い。引続き啓発活動が必要。				

No.	めざす町の姿	基本目標	施策	評価指標 (KPI)	目標値	現状値	R1末実績	進捗状況	担当課	指標の主な事業	実績値に対する現状分析、今後の取り組み方針など	
7)-⑬-1	一人ひとりが健やかで、ゆるやかに支え合っている	⑬生涯にわたって健康で活動的に生活できる人を増やす	地域ぐるみで健康に対する意識を高め、生活習慣病を防ぎます	日頃から運動している人の割合	30%	23.86%	31.75%	◎	健康長寿課	健康マイレージ事業・健康運動講座	運動のきっかけづくりや継続のため講座を開催していく。	
7)-⑬-1			地域ぐるみで健康に対する意識を高め、生活習慣病を防ぎます	喫煙者の割合	12%以下	24.50%	22.30%	○	健康長寿課	禁煙支援講座	禁煙したい人が禁煙に取り組めるような支援を行うとともに防煙講座も併せて実施していく。	
7)-⑬-1			地域ぐるみで健康に対する意識を高め、生活習慣病を防ぎます	健康に関心のある人の割合	50%	36.60%	31.40%	×	健康長寿課	健康マイレージ事業・健康情報発信	広報等を活用し健康に関する情報をタイミングよく提供していく。	
7)-⑬-1			地域ぐるみで健康に対する意識を高め、生活習慣病を防ぎます	地域活動に参加している人の割合	30%	26.90%	28.00%	○	健康長寿課	健康運動サポーター・食生活改善推進員養成講座	地域活動の担い手の育成と、町民の身近で活動できる場所をつくっていく。	
7)-⑬-2			⑬生涯にわたって健康で活動的に生活できる人を増やす	こころの健康づくりを進めます	自殺死亡率(人口10万対)	13.1以下	18.7	18.1	○	福祉こども課	自殺対策計画に沿って、年次ごと計画的に取り組みを実施講演会、ゲートキーパー養成、児童生徒への予防への取組、啓発活動を実施。	令和元年度は、計画初年度にて、計画通り取り組みを進められている。5年間計画の中で、順次進めていく。
7)-⑬-3			安心して利用できる医療サービスを提供します	後期高齢者医療の訪問診療利用者延べ人数(年間)	増加	3,804人	3,577人	×	町民課		施設入所者が増え、在宅医療利用者が減少している。施設入所すると医師や看護師が常駐している場合も多く、安心して医療サービスを受けることができる。訪問診療は医療費が高いため、医療費の負担が減る面もある。	
7)-⑭-1	一人ひとりが健やかで、ゆるやかに支え合っている	⑭地域の中でゆるやかに支え合うしくみを広げる	持続可能な地域のありかたを考える機会をつくります	集落座談会を開催した集落数(累計)	55集落	40集落	42集落	○	福祉こども課	集落単位での地域支え合い(福祉防災)マップ作成時に併催するように呼び掛ける	目標に届いていないため、各自治会へ周知徹底する必要がある。	
7)-⑭-2			得意なことを生かしたボランティア活動を広げます	ボランティアセンター登録者数	1,850人	1,751人	1,794人	○	福祉こども課	ボランティアセンターの運営	1年で20人増加を達成しており、引き続き事業を継続していく。	
7)-⑭-3			誰でも気軽に立ち寄れる居場所づくりを支援します	地域の居場所の数	9か所	6か所	7か所	○	統合	茶の間:4、サード2、かたくりの会1		
8)-⑮-1	年を重ねても誰もが自分らしくいきいきと暮らしている	⑮生きがいを持ち人生を楽しんでいる人を増やす	豊富な経験や技能を活用した生きがいづくりと社会参加を進めます	地域の茶の間の開設数	6か所	4か所	4か所	△	健康長寿課	一般介護予防事業	屋代、亀岡地区の関係者等と設立に向けて協議して行く。	
8)-⑮-2			人生を元気に過ごせるよう介護予防を強化します	住民主体の介護予防の場	35か所	24か所	36か所	◎	健康長寿課	一般介護予防事業	引き続き、未設置集落にアプローチして行く。	
8)-⑮-1			高齢者の日常生活を支えるしくみをつくります	集落のサロン数	50か所	34か所	66か所	◎	健康長寿課	一般介護予防事業	引き続き、未設置集落にアプローチして行く。	
8)-⑮-2			⑮住み慣れた地域で、安心して暮らし続けられる環境を整える	年を重ねても生活の質(QOL)を維持し向上します	買い物、通院、除雪支援を行う住民主体の団体	6団体	1団体	1団体	△	健康長寿課	生活支援体制整備事業	地元から手が上がらないと中々設立が難しいが既団体をモデルに各地区関係者と協議していく。
8)-⑮-3			医療や介護が必要になっても住み慣れた地域で暮らせる体制をつくります	在宅療養(看取り)の普及啓発事業開催回数(年間)	2回	2回	2回	◎	健康長寿課	町民への普及啓発教室	これまで3年間で6地区の公民館等で開催。今後は、継続して広く町民へ普及啓発を継続。	

No.	めざす町の姿	基本目標	施策	評価指標 (KPI)	目標値	現状値	R1末実績	進捗状況	担当課	指標の主な事業	実績値に対する現状分析、今後の取り組み方針など
8)-⑱-3	年を重ねても誰もが自分らしくいきいきと暮らしている	⑱住み慣れた地域で、安心して暮らし続けられる環境を整える	医療や介護が必要になっても住み慣れた地域で暮らせる体制をつくります	認知症サポーター数(累計)	3,000人	2,303人	2,438人	○	健康長寿課	認知症サポート養成講座年間7回実施	継続して養成講座を開催し、サポーターの活動支援についても展開していく。
8)-⑱-3			医療や介護が必要になっても住み慣れた地域で暮らせる体制をつくります	見守りネットワーク協力機関数	70か所	65か所	65か所	△	健康長寿課	認知症サポート企業認定事業	商工会等の協力を得ながら協力機関数を増やしていく
8)-⑱-4			介護者の負担を減らします	介護者研修会(交流会)参加者数(年間)	60人	47人	34人	×	健康長寿課	家族介護者交流事業	
8)-⑱-4			介護者の負担を減らします	認知症カフェの利用者数(年間)	400人	347人	562人	◎	健康長寿課	認知症カフェ、委託1か所、自主事業1か所	より多くの方が利用し、認知症の正しい理解と支援を推進していく
9)-⑳-1	みんなで未来に向けたまちづくりをすすめている	⑳地域の自然や生態系を守る活動を広げる	自然を大切にすることを育みます	食農教育の実践学校数	維持	7校	7校	◎	教育総務課	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自給野菜を活用した学校給食 7校</li> <li>・学校田 2校、学校畑 7校</li> <li>・弁当の日実践校 2校</li> </ul>	各校で、栽培活動等への取り組みを行っている。
9)-⑳-1			自然を大切にすることを育みます	自然体験教室・自然体験イベントなどの実施回数(年間)再掲	維持	31回	72回	◎	統合	<ul style="list-style-type: none"> <li>・みどり環境交付金事業を活用した森林学習体験(高畠小学校) 10回 対象者:114人(4年生:60人、5年生:54人)</li> <li>・多面的支払交付金制度による生き物調査 5回 対象者:6人</li> <li>・県、ステージアンサンプルと町の協定に基づく絆の森事業 2回 対象者:25人</li> <li>・ゆうきの里さんさんを利用した農業体験数 12回</li> <li>・河川の水質調査</li> <li>・地区づくり計画、教育キャンプ、放課後子ども教室</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・交付金事業を活用することで、多くの方を対象に森林学習体験など事業を実施できた。また、民間事業者が主体となった森林環境整備を実施できた。今後も交付金を活用し、幅広く木育の推進を図る。</li> <li>・環境学習の主軸を地球温暖化対策とし実施していることから、現状維持の取り組みを続けていく。</li> <li>・第4期地区づくり計画を支援し、事業を継続していく。事業内容に合わせて関係機関と連携した取り組みを行う。</li> </ul>
9)-⑳-2			豊かな自然を守り、次世代に継承します	有機・特別栽培水田面積	維持	712ha	686ha	×	農林振興課		令和2年度有機農業推進計画を策定し、令和3年度より有機農業を推進していく予定
9)-⑳-2			豊かな自然を守り、次世代に継承します	耕作放棄地面積	130ha	141ha	130ha	◎	農業委員会	農地パトロール、利用意向調査	農地パトロールで発見した耕作放棄地について、所有者に利用意向調査を行うことにより、完全に管理放棄する前に、自己保全する方向に促すことができている。今後も重点的に取り組んでいく。
9)-⑳-2			豊かな自然を守り、次世代に継承します	屋代川のBOD値の値	2mg/L以下	1.2mg/L	0.7	◎	生活環境課	河川の水質調査	目標達成できている。
9)-㉑-1			⑳持続可能な環境づくりに取り組む人を増やす	環境にやさしいライフスタイルを定着させます	COOL CHOICE賛同者・企業数(累計)	1,100人・60団体	954人・40団体	1,030人・43団体	○	生活環境課	地球温暖化対策事業(エコドライブ事業・かんきょう塾等)

No.	めざす町の姿	基本目標	施策	評価指標 (KPI)	目標値	現状値	R1末実績	進捗状況	担当課	指標の主な事業	実績値に対する現状分析、今後の取り組み方針など
9)-⑪-2	みんなで未来に向けたまちづくりをすすめている	⑪持続可能な環境づくりに取り組む人を増やす	効果的・効率的なエネルギー対策に取り組めます	公共施設の温室効果ガス排出量(年間)	5,258t-CO2	5,779t-CO2	5,066t-CO2	◎	生活環境課	カーボン・マネジメント強化事業ほか	公立高畠病院の設備を省エネ設備に更新したこと等により、温室効果ガス排出量の削減に繋がった。効果を検証し、他施設にも取り組みを広げていく。
9)-⑪-2			効果的・効率的なエネルギー対策に取り組めます	再生可能エネルギー導入容量(固定価格買取制度適用分)	9,200Kw	8,694Kw	8,993Kw	○	生活環境課	再生可能エネルギー設備導入事業費補助金	再生可能エネルギー設備導入に対し、補助金を交付し支援を行うことで導入の促進を図ることができたため、継続して取り組んでいく。
9)-⑪-3			循環型社会の形成を進めます	最終処分廃棄物量	700t/年	766t/年	724t/年	×	生活環境課	置広での可燃物焼却灰埋立、不燃物処分量	目標に向け取り組んでいる。しかし、災害等で増加する場合もあり達成できるか不明。
9)-⑫-1		⑫歴史、文化遺産を守り活用し、伝承する人を増やす	歴史や文化遺産を正しく理解し、大切に守ります	歴史文化学習会の開催数(年間)	45回	42回	53回	◎	社会教育課	うきたむ学講座、古文書講座等	引き続き文化施設、関係機関と協力し事業を実施してゆく。
9)-⑫-2			文化遺産を活用し、潤いのある暮らしをつくります	文化遺産の活用事業数	5事業	2事業	2事業	△	社会教育課	旧駅舎特別公開、高畠石切りサミット	年度末に計画していた事業がコロナウイルス感染防止に伴い急遽中止した。コロナ時代に対応した実施可能な方法を模索している。
9)-⑬-1		⑬夢や志を持ち活躍する若者を増やす	若者がまちや地域を知るための機会を提供します	40歳未満の若者を対象とした町・地区事業の実施回数(年間)	増加	94回	60回	×	社会教育課	各地区の青少年講座・成人一般講座の回数	事業回数を増加することは良しとしない。ニーズ調査を行い、若者が必要としている事業等の情報を収集することが重要と認識している。
9)-⑬-1			若者がまちや地域を知るための機会を提供します	中学生や若者によるまちづくり企画の支援回数(累計)	40回	-	40回	◎	統合	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中高生海外派遣研修事前事後研修・青年団体連絡会</li> <li>・国内研修(まちの新人研修)</li> <li>・4商店街ワークショップ</li> <li>・東京大学フィールドスタディ</li> <li>・東京外国語大学スタディツアー</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・シングルTON派遣者と成人式実行委員会を対象に、「まちの新人研修(自分を知る・街を知る)」を実施し地域を知るための機会を提供していく。</li> <li>・各団体からの新たな事業提案、各大学のフィールドスタディを通して、町づくりの企画の支援を行う。</li> </ul>
9)-⑬-2			夢や志を持つ若者を応援します	若者活動団体による若者を対象とした事業・活動の実施回数及び参加者数(年間)	増加	14回・520人	10回・452人	×	社会教育課	青年団体連絡会の会議・イベント・研修会	自主的、自発的な活動を促し、事業が継続できるよう支援をしていく必要がある。事業に応じて観光関係と連携した取り組みを行う。
9)-⑬-2			夢や志を持ち活躍する若者を増やす	若者の夢や志を支援するプロジェクト事業実施回数	5事業	-	4事業	○	統合	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高校生ボランティアサークル地球、中高生海外派遣事業</li> <li>・たかひたオーガニックラボ</li> <li>・商店街おためし市</li> </ul>	携わる中高生の活動を支援し、事業を継続していく。事業内容に合わせて関係機関と連携した取り組みを行う。新たな事業提案に対し、各種補助制度の情報提供を行い支援していく。

No.	めざす町の姿	基本目標	施策	評価指標 (KPI)	目標値	現状値	R1末実績	進捗状況	担当課	指標の主な事業	実績値に対する現状分析、今後の取り組み方針など
9)-⑭-1	みんなで未来に向けたまちづくりをすすめている	㉔協働でまちづくりを進めるための環境を整える	町民が参加・参画しやすい協働のしくみをつくります	町民とのまちづくりワークショップや人材育成事業の実施回数(累計)	100回	27回	39回	○	統合	<ul style="list-style-type: none"> <li>まちカフェ、まちづくりトーク開催数</li> <li>地域福祉シンポジウム、地域福祉活動推進事業補助</li> <li>たかはた農とびあ実行委員会開催数</li> <li>4商店街ワークショップ</li> <li>九里学園高等学校スタディツアー</li> <li>シングルトン派遣事業</li> <li>都市計画マスタープラン策定地区懇談会</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>第6次総合計画の実践編として開催。町長とのまちづくりトーク開催したが町への要望のみでみんなでまちづくりを行うという雰囲気づくりが難しい。</li> <li>シンポジウムでは地域の実践者の活動を周知し地域活動に関わる機会を作ることができた。地域福祉活動推進する団体に対し補助する形で住民による福祉のまちづくりへの支援を行うことができた。</li> <li>若手農業者を主体とし、農業者間のネットワーク構築と互いに学びあう場づくりを目的に開催し参加者から好評を得ており次年度も継続開催の見込み。</li> <li>中高生、各大学のフィールドスタディを通して人材育成事業を進めていく。</li> <li>長年築いた関係人口の増加に向けて今後も双方向の文化交流を継続していく。</li> <li>高島・屋代・糠野目3地区から構成員として計33名に参加。計画の策定が完了したため、今後の開催はない。</li> </ul>
9)-⑭-2			将来を見据えた行財政運営と職員育成を進めます	財政力指数	0.387%	0.387%	0.396%	◎	企画財政課	基準財政収入額のうち、固定資産税、地方特例交付金が増加したことによる増	
9)-⑭-2			将来を見据えた行財政運営と職員育成を進めます	派遣研修受講職員の延べ人数	120人	110人	133人	◎	総務課	専門分野派遣(29人)、県研修所(87人)、置研協(17人) 延べ133人	
10)-㉕-1	高島町の魅力が伝わり、訪れる人、戻る人、移り住む人が増えている	㉕町内外に町の魅力を効果的に発信する	高島町といったらこれという町の魅力を再発見します	ふるさと名物応援宣言による地域ブランド商品サービスの開発件数	5件	-	0件	△	商工観光課	地方活力創生プロデューサー事業	「ふるさと名物応援宣言」を目指し、地方活力創生プロデューサー外園氏と協議しながら「ふるさと名物」探しを進めてきたが、商品開発及び宣言までに至らなかった。プロデューサーの任期も終了し、応援宣言」の取り組みが中断となっているため、どのような形で「宣言」を目指せるのか検討していく。
10)-㉕-2			戦略的なプロモーションを行います	首都圏プロモーションの実施回数(年間)	10回	5回	6回	○	商工観光課	<ul style="list-style-type: none"> <li>横浜市栄区民まつり</li> <li>横浜市旭区ふれあい区民まつり</li> <li>東京都江戸川区「食文化の祭典」</li> <li>トレッサ横浜(大型ショッピングセンター)</li> <li>JR仙台駅たかはたフェア</li> <li>犬猫安らぎの郷プロモーション</li> </ul>	プロモーションの開催時期と町内イベントの実施時期が重なるため、現状以上のプロモーション実施が難しい状況となっている。また、今年は新型コロナウイルスの影響で首都圏でのプロモーション実施が当面不可能であることから、新たな戦略を考えることが急務である。
10)-㉕-1			観光者の滞在時間を増やす新たな観光プログラムをつくります	町内宿泊者数(年間)	34,372人	29,372人	25,119人	×	商工観光課	年々観光客数が減っており、比例して宿泊者数も減となっている。昨年の大雨による災害や今年に入ってから新型コロナウイルスの流行が大きく影響し、更に観光客、宿泊者数が激減している。コロナ禍の中でも出来ることとして、現在、観光資源の発掘及び磨き上げに取り組んでいる状況であり、高島ならではの新たな観光プログラムをつくり、誘客を図りたい。	

No.	めざす町の姿	基本目標	施策	評価指標 (KPI)	目標値	現状値	R1末実績	進捗状況	担当課	指標の主な事業	実績値に対する現状分析、今後の取り組み方針など
10)-⑰-3	高島町の魅力が伝わり、訪れる人、戻る人、移り住む人が増えている	⑰交流力を高め、高島町を応援する人や地域を増やす	町外においても高島町を応援してもらえるしくみをつくります	都市部で主催する交流事業の参加者数(年間)	100人	50人	234人	◎	統合	<ul style="list-style-type: none"> <li>・すみだまつり</li> <li>・たかはた墨田交流事業</li> <li>・高島町友好都市交流事業</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・すみだまつりへは30回を越える参加回数となっており、参加者の世代交代を行いながら継続している。</li> <li>・今後、当面の間はコロナ禍で都市部での事業展開は困難であるため、各種催事に参加いただいた方々の顧客情報を活用し、SNS等での情報発信を行っていくよう取り組みたい。</li> <li>・長年築いた関係人口の増加に向けて今後も双方向の文化交流を継続していく。</li> <li>・栄区からの受け入れ(89人)、栄区への訪問ツアー(42人)を実施し、住民同士の交流を図ることができた。</li> </ul>
10)-⑰-3			町外においても高島町を応援してもらえるしくみをつくります	ふるさと納税の申込延べ人数(年間)	2,500件	1,509件	1,286件	×	企画財政課	ふるさと納税返礼品事業	<ul style="list-style-type: none"> <li>・寄附件数の減少率(14.7%)に比べて、寄附金額の減少率(1.2%)は低い。R2年度から所管が商工観光課に移管し、委託業者も導入しテコ入れが図られ、納税額の伸びを期待している。</li> </ul>
10)-⑱-1		⑱移住・定住しやすい環境を整え、戻ってくる人、移り住む人を増やす	高島町に住みたくなるきっかけをつくります	移住相談(問い合わせ)件数(年間)	100件	8件	54件	○	統合	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新規就農関係フェア</li> <li>・空き家バンクの活用、若者定住促進事業</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新規就農フェア対応者のうち、2名が来町し移住(高島での就農)に向けて相談をすすめている。</li> <li>・高島に住みたくなるような魅力ある地域資源やイベント等をSNSを活用しながら発信していく。</li> <li>・空き家バンク活用による移住希望者が多いが、登録物件が不足している。</li> </ul>
10)-⑱-2			高島町に移り住む人を応援します	空き家バンク成約数(町外の方の累計)	50件	1件	2件	○	建設課	空家バンクにより空家の有効活用	空家バンク活用による移住希望者が多いが、登録物件が不足している
10)-⑱-3			移住した人たちが永く住み続けられるようサポートします	移住者支援事業の開催回数(年間)	3件	0件	0	△	企画財政課		該当する事業開催がなかった。

No.	めざす町の姿	基本目標	施策	評価指標(KPI)	目標値	現状値	R1末実績	進捗状況	担当課	指標の主な事業	実績値に対する現状分析、今後の取り組み方針など
10-26-1		㉔町内外に町の魅力を効果的に発信する	観光者の滞在時間を増やす新たな観光プログラムをつくります	外国人宿泊者数(年間)	5,000人	484人	234	×	商工観光課		今年に入り、新型コロナウイルスの影響で特に町内を訪れる外国人観光客が減少していることも影響している。外国人観光客については通過型が主流となっているため、今後は魅力ある滞在型メニューづくりに取り組んでいく必要あり。
10-26-2		㉔高島町ならではの発想による観光を生み出し、訪れる人を増やす	高島町ならではの観光情報の発信を強化します	町公式ホームページ観光サイトの閲覧数	10,000回	-	12,627回	◎	企画財政課	町公式ホームページ観光サイト閲覧数	ホームページリニューアルに伴い、目新しさから閲覧数が伸びたが、情報の更新がイベント告知以外なく、3月の閲覧数は788回であった。イベントの告知以外でも高島町のPR活動の場として使用し、随時新規情報を更新していく。
10-26-2			高島町ならではの観光情報の発信を強化します	町の魅力発信ワークショップ参加者数	120名	-	0	×	商工観光課		年1回は実施出来るよう計画を立てていく。
10-26-2			高島町ならではの観光情報の発信を強化します	町公式YouTubeチャンネル再生回数	100,000回	17,761回	26,451回	○	企画財政課	町公式YouTubeチャンネル再生回数	新しい動画を2本更新したが、再生回数は2110回と156回。(参照:尖つタウン7,175回)既存の動画の再生回数は伸びないため、質の高い新規動画をあげていく。
10-27-1		高島町の魅力が伝わり、訪れる人、戻る人、移り住む人が増えている	㉔交流力を高め、高島町を応援する人や地域を増やす	さまざまな場所から人が訪れ、高島町を体感できる機会を増やします	町内農業体験者数(年間)	700人	513人	489人	△	農林振興課	ゆうきの里さんを利用した農業体験者数、歴代村塾、修学旅行受入れ数
10-27-1	さまざまな場所から人が訪れ、高島町を体感できる機会を増やします			熱中小学校プロジェクトによる交流人口(年間)	2,500人	2,281人	2,834人	◎	企画財政課	熱中小学校プロジェクト	秋のぶどうまつりや民間の会場利用などにより、利用者が増加した。
10-27-2	継続して高島町と関わりを持つ団体・企業・地域を増やします		県外の企業・自治体・大学等と協働で3年間以上継続して行っている事業の数(累計)	10件	6件	11件	◎	統合	<ul style="list-style-type: none"> <li>・栄区民祭り</li> <li>・立教大学交流連続講座</li> <li>・すみだまつり参加、道の駅村田での農産物販売</li> <li>・横浜市栄区・旭区、東京都江戸川区、宮城県山元町との物産販売を通しての交流事業</li> <li>・トレッサ横浜(大型ショッピング店)での物産販売・町PR事業</li> <li>・たかはた墨田区交流事業、シングルトン派遣事業</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・栄区交流事業の一環として開催し相互交流も行っているがコロナ禍で今までのような事業が行えず今後の事業展開をどうするかが課題。</li> <li>・毎年2講座実施している(立教大学講座)ものの相互の交流に広がらない</li> <li>・道の駅村田での農産物販売を施行実施し、R2からは定例開催の見込み。</li> <li>・現在は4自治体と1企業との交流事業が続いているが、一昨年より東京外国語大学、昨年より東京大学と連携したスタディツアー事業が実施されており、目標値の件数に近づきつつある。今後も様々な機会から新たな交流事業の実施につなげていきたい。</li> <li>・長年築いた関係人口の増加に向けて、今後も双方向の文化交流を継続していく。</li> </ul>	